

平成27年度第1回河南町地域公共交通会議 会議録（議事要旨）

- 日 時 / 平成27年4月15日（水）午後1時30分～午後3時00分
- 場 所 / 河南町役場4階 大会議室南
- 出席者 / 委員25名／欠席委員3名（うち代理出席者1名）
  - 随行者4名
  - 事務局6名
  - 傍聴者2名
- 配布資料
  - ・議事次第
  - ・委員名簿
  - ・河南町地域公共交通会議規則
  - ・河南町地域公共交通基本計画（概要版）
  - ・河南町地域公共交通会議日程
- 議事次第
  1. 開会
  2. 町長あいさつ
  3. 委員紹介
  4. 河南町地域公共交通会議規則について
  5. 議題
    - 役員の選出等について
      - ・会長あいさつ
  6. その他
    - ・河南町地域公共交通基本計画（河南町地域公共交通検討会議）について
  7. 閉会
- 議題
  - 役員の選出等について（会長、副会長）
    - ・会長：平峯委員
    - ・副会長：奥村委員、小川委員
    - ・会長に事故等がある場合の職務を代理する副会長：奥村委員
- その他
  - 河南町地域公共交通基本計画について

事務局から河南町地域公共交通基本計画（概要版）に基づき、河南町地域公共交通基本計画の概要について説明。

基本方針として路線バスを改善・強化するための取組み、やまなみバスを再編するための取組み、デマンド型路線を実現するための取組みを進めていくこと。また、効率的な交通システムを構築するための取組みとして、交通結節点、乗継拠点の整備を進めていく考

えであること。やまなみホールを起終点として北部循環バスと南部循環バスのルート設定をしていること。南部循環バスはさらにA、Bの2ルートに分け隔日運行としていること。山手エリアはデマンド型路線としている。役場周辺部を路線バスと循環バスの乗継拠点として想定している。

#### ■河南町地域公共交通会議日程について

事務局から資料「河南町地域公共交通会議日程」に基づき、河南町地域公共交通会議のスケジュールについて説明。

4月（今回）、6月、7月、9月に会議を予定しており、審議内容としては、運行ルート、運行ダイヤ、停留所の位置、運賃等について審議いただく予定としていることを説明。

#### ○意見交換

##### ■停留所について

・停留所の位置等の検討はどのように行うのか。停留所については住民の意見や希望が出ると思う。非常にタイトなスケジュールではあるがこれに要する時間も考慮していただきたい。

→町でワークキンググループを作り、そこでバス停、運行ダイヤ等を検討したうえで会議に諮る形で考えている。

→バス停の位置は自由に決められないので、いきなり意見を聴くということではなく、法的に可能な場所を選定させていただいてから考えることとしてはどうか。

→やまなみバスの再編ということで今回循環バスであるが、やまなみバスと循環バスではコンセプトも形態も違うので、現在のやまなみバスのバス停が全て循環バスのバス停として認められるとは限らない。その点について、委員の方には共通認識を持っていただきたい。

##### ■ワーキンググループについて

・ワーキンググループで予定されている作業は何か。メンバーはどのように考えられているか。

→バス停の位置、運行ダイヤ等を予定している。メンバーについては、町の職員と、委員の中からお願いすることを想定しているが、選考に関しては今後調整させていただきたい。

##### ■交通会議の日程（スケジュール）について

・今後予定されている6月、7月、9月のそれぞれの審議項目は何か。

→今後の予定については改めてお示しさせていただく。

##### ■路線バス（金剛バス）との共存について

・循環バスルートが既存の路線バスのルートと大半の部分で重なっている。路線バス及びやまなみバスの利用者数がともに減少しており、総合的な利用者数が減少している中で新たな交通体系を作ることとは現状の路線バス事業者の利用者を大きく減らすことになる。循環バスを走らせることで、路線バスの利用者が、少なくとも現状をキープできる計画を立てなければいけない。そうでなければ町として地域公共交通として路

線バスはいらないという答えを出すことになる。また、既存バス事業者の利用が減り、撤退した場合にも持続可能かどうかよく検討することが必要。

→町がお金を出せばすぐ走れるということではなく、与えられた法律の枠の中で検討していかないといけない。路線自体は重なっているが、路線バスの路線と今回やろうとしているやまなみバスの再編というのは、同じ道路は通るが、目的が違っていると考える。それを交通空白地帯とみなしてもらえるかというところが非常に大きなポイントと考える。現状の路線バスで北部と南部を乗り継いで利用できるかということ、できない。町内の商業施設や病院等に既存のバスで行けるかということこれも難しいわけで、路線バスとどこの部分が競合しているか、どの部分が協力できるか、再編した新しいバスで、あるバス停まで行って路線バスに乗り継いで駅まで行っていただくというWIN-WINの関係ができるかということが議論の課題である。

→検討会議では路線バスとの関係がどうあるべきかとのというのは常々意識してやってきた。最終的にはWIN-WINの関係になれるように、乗り継ぎというものを考えて路線バスの路線を補完し、両方ともうまくいく方向で検討してきた。

→本町には鉄道駅がなく、駅へ出るためには、路線バスを利用しなければならない。検討会議では循環バスから路線バスに乗り継ぎ、駅へ行っていただけるように検討してきており、その考えの元に作成された基本計画である。

→路線バス事業者については、兼ねてから委員への就任を依頼しているが、まだご承諾をいただけていない。引き続き協議の場に入ってもらえるよう粘り強く依頼をしていきたい。

→循環バスについては路線バスと路線が重なっているが、町内で路線バスの移動がどれだけあるかないかは町の方で調査すべきあり、これを踏まえて単純に路線が重なっているから競合であるというのではなく、色々な角度から見て、交通空白地であるという判断をいただきたい。

- 町域内流動を充実させることで既存の路線バスで賄っている町域内流動がどれだけ落ちるのか、もしくは、結節を良くして駅への流動が伸びるのか、当然WIN-WINの関係になれば一番いいが、そのあたりの数値は把握されているのか。バスを走らせるということは、特に有償なので、町の力の及ばない部分で、相当な条件、制約が発生し、簡単なことではない。

また、運送に際して一番大事なことは便利さではなく、安全性を担保するという点が非常に重要で、既存の路線バスは、一定の安全の品質要求を求められた上で、許可を取得されて運行を担っておられる。反面、白ナンバーでの運行となると免許一つにしても2種免許は必要ないため、安全担保は非常に脆弱になる。その点を踏まえて、緑ナンバーでの運行を検討していただきたい。

#### ■利用促進策について

- 全体的に自動車交通に依存している中で全体の利用者を増やしていくような利用促進策も検討が必要。運行計画の審議も重要であるが、利用促進していくために商業施設

との連携であるとか町民一人ひとりが使っていくような気運を高めていくような方策であるとか、そういったところも並行して議論していかないといけないと思う。

→実証運行以外のそういった施策については、検討会議において並行して検討していくのも一つである。

→町の方では基本計画にある計画概念の中で基本方針があり、これらの方針にのっとって進めている。従って単に既存のバス事業者に対して補助するというのではなく、利用が増えるような形、例えば時刻表の作成等を含めて考えている。

■その他

・実証運行ではデマンド型も同時にやる予定なのか。

→検討会議でも約束したとおり、やまなみバスが廃止になるため、何らかの形では行う予定である。

→循環バス、山手のデマンドバスも含めて、町内一斉にと考えている。

・現在、白木小学校の児童が下校時にやまなみバスを利用しているが、やまなみバスが再編された場合はどうなるのか。

→教育委員会としては、別で検討しないといけないと考えている。

以上